

参加者へのお願い

- 質問&意見を積極的にチャットでお寄せ下さい
 - 第一部では、ファクトを確認する質問のうち重要なものをWG幹事が選定し、講演者に確認いたします
 - 第二部では、登壇者のうち3名に、定期的にチャットを確認し、頂いたご意見を取り上げて頂く役割をお願いしています
 - 特に重要なご意見は、司会者から、直接マイクでお話し頂くようお願いするかもしれません
- ご発言やチャットは報告書等の作成を目的に録画させていただきます。（引用する場合は、事前にご相談させていただきます）

シンポジウム（第一部）の構成

第一部 講演と報告 「課題の前提条件の変化を認めよう」

- 気候変動に立ち向かうために：「カーボンニュートラル」と原子力

堀尾健太氏(電中研)、永井雄宇氏(電中研)

- 魅力あるエネルギーであり続けるために

- 気候変動起点の外部環境変化を踏まえた原子力の未来：カーボンニュートラル政策の動向と投資家の視点

齋田温子氏（三菱総研）

- 原子力研究者が考える原子力の魅力と役割

竹田敏氏（阪大、タスク1リーダー）

- 原子力・放射線領域の学術としての魅力を保つために：課題を見つけ出す工夫・仕組みをどのように具体化していくか

- 羽倉尚人（東京都市大、タスク3リーダー）

- 岡村知拓氏（東工大、学生連絡会）

- 吉永恭平氏（三菱総研、若手連絡会）

外部専門家の
問題意識

どのくらい
噛み合う？

WGメンバ
の問題意識

今回は、研究コミュニティの問題という切り口で議論する

論点 1

- 学会事故調は事故前に**自由で率直な意見交換**を妨げる環境があったと指摘。その背景には、学会員の**問いかける姿勢** (Questioning Attitude) の欠如があった
- 原子力が地球環境の持続性へ貢献する能力を持つことは自明だと思うが、**能力を過信している**可能性はないか？
- 逆に、気付けていない潜在能力はあるか？

論点 2

- 原子力技術を持続させるためには、多様な**社会課題の変化**を敏感に察知し、その解決に向けた具体的な提案を続けることが必要
 - 例) 学生が研究したいと思う超小型炉の概念設計を生み出せるか？
- 課題の捉え方には専門性の違いが大きな影響を与える。利害関係は属人的なものである
- **総合的な学会**として、社会課題の探索にどのように貢献できるか？

論点3

- 2050年までの時点のどこかで、課題設定の前提を変えるような **Game Changer** が必ず出現する。
 - 例) 遺伝子診断技術 → 原子力安全の目標の詳細化
- 未来像WGの活動を通じて、どのような要素に対する感度が特に上がったと感じるか？
- 社会環境の変化にレジリエントに対応するための基盤を、いまからどのように構築すれば良いか？

まとめに代えて

- 最終的な報告は、原子力学会の秋の大会を目標に取り纏めます。
- 本シンポジウムによって得られたインプットを整理し、原子力の未来像の検討を具体化するために、本年4～7月の期間中に**複数回のオープンな勉強会**を企画する予定です。どうぞご参加ください。

二日間のシンポジウムで 明らかになった論点

- 原子力関係者の議論は、安全目標制定につながるメッセージにはなっていない（事故調フォロー）
- 産業保安の観点での議論、放射線リスクを超えた社会安全の中で決めていく仕組みが必要（3.11 総合討論）
- 原子力には、IoT、バイオ等の先端技術の先輩として、先導を期待する（3.11 総合討論）
- 原子力の専門家が自らの安全の目標を提案するために、**オープンで超学際的な**取組が必要

二日間のシンポジウムで 明らかになった論点

- 1F廃炉はナショナル・チャレンジ、イノベーションの始まり（廃炉委）
- 次世代確保には、原子力全体を覆う閉塞感を払拭する展開（新增設・革新的原子炉技術の推進）が重要？（事故調フォロー、3.11総合討論）
- 原発安全体制のガラパゴス化・奥の院（第2民間事故調）
- 原子力は「未完の技術」ではないか（3.11総合討論）
- 一人ひとりのウェルビーイングの重視（3.12総合討論）

- 原子力技術を巨大複雑系システムと取らえることは、「未完の技術」という姿勢と同義
- 個人や組織が多様な価値を載せられる**器としての原子力システム**の仕組みを真剣に検討することが必要